

学生時代、特に卒研に配属される前や就職活動が始める前にぜひ読んでもらいたいです。ものの見方や考え方を多角的・重層的に捉えることができ文章を書くのにも役立ちます。皆さんが社会に出ると答えのない問題に直面することがしばしばあり「考える」ことが必要になるでしょう。そのときの一助となる本です。ショートストーリーで構成されているので興味を持ったタイトルから読めますよ。



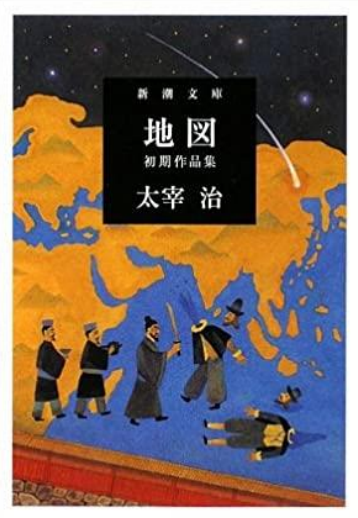
近代日本の文芸評論を確立した小林秀雄と、多変数解析関数論において「3つの大問題」を一人で解決し日本数学史上最高の数学者と言われる岡潔との知の巨人ふたりの対談本です。学問や芸術といった創造的活動においてあるべき姿やお互いの趣味の話など両氏から発せられる全ての言葉は時代を越えて示唆と普遍性に富み、そして人にとつて何が必要かを教えてくれます。



この本は、1957年に44歳でノーベル文学賞を受賞したフランスのカミュの自伝的な作品です。カミュの父は貧しく若死にしたので息子カミュに何一つ伝えることができませんでした。そのため父から何も教わる機会のなかったカミュは「最初の人間」なのだそうです。最初の人間であるがゆえに「いかに生きるか」を考えています。ただ残念ながら未完であるため、答えは読者自身に委ねられています。



ファイマン(理論物理学者)は「アメリカが生んだ天才」と評されています。彼の発案した素粒子の反応過程を表す「ファイマン・ダイアグラム」は素粒子実験と理論を比較することができ、「物理における最も精密な理論計算」と呼ばれています。そのようなファイマンが、何かを「ほんとうに知る」ということがどんなに大変であるか、何度も語っています。今、皆さんは数学や科学について基本的なことを学び始めたばかりで、ものごとの本質を「知る」ということの最初の一步を踏み出したところですよ。突き詰めれば突き詰めるほど、「未知なるなぜ」がこの先多く出てくると思います。真の解へのあくなき探究の気持ちを持たせてくれる一冊です。



「習作」や「初期作品」と呼ばれている太宰治初期の作品を中心に28編が収められています。この本のタイトルにもなっている「地図」は太宰が旧制中学生のときの作品で、特権的な地位や身分にある者がふとしたことで地位や富を失い、その結果、人格が変わる人の心の弱さを描いています。このように若くして、太宰の片鱗を見ることができます。

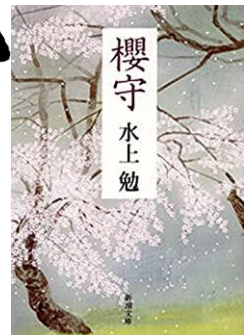


本のタイトルが素敵ですよ。全編を通して、筆者が感じた鮮やかな季節の移り変わりやこの国の美しさが書かれています。そしてささやかな生活の営みの中で厳然と輝き、今に伝えられる風習や誇りを忘れない日本人の心根に触れることができます。自然や季節の美しさを今一度思い返し、日本の風土で育まれた「美しい日本人の心根」を持つと、感じさせられる作品です。

社会や他人とかは思い通りになることはなく、常に自分と社会にはギャップがあります。それを分かった上で、自分の基準を持ちその基準に照らし合わせ偽ることなく生きることが、ソクラテスが言う「善く生きること」です。日々の学習から高い教養や深い知識を身につけいろいろな経験を積んで少しずつ自分の基準の種類を増やして下さい。人それぞれモノサシが結果として違ってくるので、他の人の基準が違ふことと自分の基準が絶対ではないということを認識する理性を磨いていくことも大切です。改めて「みんな違って、みんないい」を心にとめ、自身の基準に照らし正直に生きることの大切さを教えてくれる本です。



福井に関係する一冊をと思い、福井出身の作家で水上勉のこの本を選びました。実在した桜研究者の笹部新太郎氏をモデルに日本古来の桜であるヤマザクラやエドヒガンなどを守り育てることに情熱を傾けた庭師のお話です。美しい言葉で綴り上げられています。福井には樹齢二〇〇年をゆうに越す桜の銘木が多くあります。読書後、きつと次の開花時期に見に行きたくなりま



なぜこの本を紹介するかというと、16 の話の中の「二十一世紀に生きる君たちへ」を、二十一世紀の真っ只中を生きる皆さんに読んでもらいたいからです。激動の二十世紀を生きた司馬は残念ながら二十一世紀を見ることなく亡くなりました。新世紀に対する司馬の思いや願望がこの話に凝縮されています。司馬が心血を注いだ渾身の名文です。ぜひ読んで下さい。そして皆さんが将来家庭を持ち子供が大きくなったら、今度は子供と共に司馬の世界観に触れてみて下さい。同時収録の「洪庵のたいまつ」も素晴らしいですよ。

